階上遺産

Legacy

40 階上町町制施行周年記念誌

懐かしい未来へ向けて

青森県階上町（はしかみちょう）

風土の記憶

prologue

風土とは、土地（場所）と住む人々の生活の知恵（文化）が
融合してできた土地柄のことをいいます。

レガシーは、歴史がもたらした遺産の意味ですが、
私たちは、階上のレガシーを
「風土の記憶」として受け継いでいかなければなりません。

子どもたちの懐かしい未来のために。

目次 contents

【挨拶】
階上町長　浜谷 豊美 …… 02
階上町議会議長　林 貢 …… 03
【前史】①
山里の産業史 …… 04
【前史】②
海の産業史 …… 06
【町制40年の歩み】
階上は心のふるさと …… 08
【特集】1
言葉の化石 …… 16
【特集】2
思い出写真館 …… 18
【特集】3
私の階上、未来の階上 …… 20
【特集】4
川柳で感じる郷土の階上 …… 22
【特集】5はしかみ宝図鑑
①自然・歴史・文化財 …… 24
②人物 …… 26
③偉人 …… 28
【資料編】
町民と共に歩む …… 29

子どもたちへ夢と希望を

階上町長
浜谷 豊美

階上町は、令和2年5月1日をもちまして町制施行から40周年という節目の年を迎えました。これまで、町民の皆様の郷土愛に支えられながら、また、三陸復興国立公園の山と海に囲まれた豊かな自然の恩恵を受けながら、着実に発展してまいりました。

幾多の試練を経ながらも、わが郷土を築きあげてきた先人たちのたゆまぬ努力の功績は多大であり、深甚より感謝申し上げます。

元号が「令和」となり、産業構造の変化や人口減少が一層進むなど、社会情勢が大きく変化する中、本町では長寿社会を積極的に生きる「創年（そうねん）」という考えを発信しながら、生涯学習を通じて何歳になっても生きがいを見つけることができる新たな取り組みを行っております。

本町では令和2年度から、10年先のまちづくりを見据えた「第5次階上町総合振興計画」がスタートしました。町民の皆様が心豊かで、活力あふれる地域づくりの実現に向け、階上ブランドや健康づくりの推進、未来を担う人づくりなどに取り組むこととしております。

急速に進行する少子高齢化や核家族化に伴い、人と人とが顔を合わせ、心を通わせる機会が少なくなりましたが、これまで以上に学校や家庭、地域が連携し、子どもから高齢者まですべての町民の皆様が豊かな心と生きがいを育める環境をつくることが重要であると考えております。

階上町のまちづくりの理念は「ゆめ　みらい　心と　きめく　ふるさとづくり」の実現です。町民の皆様と町が共に地域を支え合い、「協働のまち」を築き上げていくこと、未来を担う子どもたちが夢と希望を持って成長できる社会をつくることを目標に、変わりゆく社会情勢に対応しながら、今後も各施策を展開してまいります。

町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、町制施行40周年記念誌発刊にあたってのあいさつといたします。

幸せを実感できる町へ

階上町議会議長
林　貢

本町が昭和55年5月1日に町制を施行して以来、40周年という節目の年を迎えました。この喜びを、関係各位をはじめ町民の皆様と共に分かち合いたいと思います。当時、町制施行を記念して、町内一円をパレードし、子どもから大人まで多くの町民の方々が小旗を振りお祝いをしていたことが思い出されます。

さて、町制施行以来今日まで、役場庁舎の移転新築、町総合振興計画や協働のまちづくり計画の策定、三陸復興国立公園の指定など、着実な歩みが進められてまいりました。

その一方で、東日本大震災や豪雨災害等に象徴される多くの自然災害の発生など、町を取り巻く環境は激しく揺れ動き変化してまいりました。

そのような中、先人は幾多の困難を乗り越え、町民一丸となってまちづくりに取り組み、着実な発展を遂げ今日の我が郷土階上町を築き上げてこられました。

時代は、昭和から平成、そして令和へと移り変わりました。温故知新のことわざもございますが、この節目の年にこれまでの歩みを振り返り、町の歴史と先人の思いを後世に受け継いでいくことが私たちの務めであり、本記念誌発行は大変意義深いものであると考えております。

現在町では、明日の階上町実現のため、第5次階上町総合振興計画を策定し、まちづくりを進めております。

この記念すべき節目を契機に、より一層創意と工夫を凝らし、執行機関と議会が一体となって様々な課題に取り組み、町民の皆様が幸せを実感できる町が形成されるよう努力してまいりたいと考えておりますので、皆様のご指導、ご鞭撻（べんたつ）を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、これまでまちづくりに携わってこられたすべての方に感謝申し上げ、今後ますますの町勢発展を祈念し、町制施行40周年記念誌発行にあたってのあいさつといたします。

「山里の産業史」

古代の農耕

古代になると、東北地方は大和朝廷の権力の及ばない「化外の地」（未開の辺境の地）とされ、族長を中心にした蝦夷集団が、それぞれの地を分割支配していました。

八戸市の鹿島沢古墳群（7世紀後半）、丹後平古墳群（7世紀後半～8世紀代）、おいらせ町の阿光坊古墳群（7世紀前半～9世紀末）からは馬具や鋤・鍬などが出土しており、当時のこの地方における農耕の様子が推測されます。

この蝦夷の時代の農作物に関しては、遺跡調査により米や大麦、小麦、稗、粟、ソバ、大豆、ナス、マメ科のササゲ、イチゴが確認されているようです。

「妙の牧」の馬産

古代末期から近世初頭にかけて、現在の青森県の東半分と岩手県北部にわたる広大な地域は「糠部」と呼ばれました。そこはさらに東西南北の四つの門、「四門」地域に区分され、これに宇曽利（下北地方）が加わっていました。階上町は、岩手県洋野町などとともに「東の門」地域に含まれます。

この糠部は、駿馬の産地として知られ、中でも宝暦年間（1751～1764）の記録では、蟹沢・野沢・松館・角柄折・正部家・道仏から海岸付近に至るとされる「妙の牧」（妙野）は、室町時代後期の記録に「九千匹のまき也」と記される最大級の古牧でした。

その後、寛文4年（1664）に八戸藩が設立され、「妙野」は「広野」とともに盛岡藩から八戸藩に譲渡されますが、その時代にはすでに衰退期に入っていて、天明元年（1781）には休野になっています。

ただし、野馬（藩営牧野で飼っている馬）はなくなったものの、里馬（民間で飼っている馬）は依然として多く、藩の大きな財源だったとも記されています。現在も、国道45号から石鉢に至る道路脇に蒼前神社がありますが、これは宝暦11年（1761）に建立されたもので、妙野の馬護神であったと伝えられています。

飢饉と開田事業

藩政期の階上町は三戸郡の代官所が管轄する八戸廻に属し、ほとんどが蔵入地（藩直轄の支配地）ながら、元禄10年（1697）の「郷村高帳」によれば、合計1063石余（約15万9450kg）の84パーセントは畑作高になっており、軽米・久慈通同様、雑穀に頼らざるを得ない寒冷地農業を余儀なくされた地域でした。

事実、近世270年間に南部地方を襲った凶作は79回を数え、いわば平均して3年に一度は冷害に見舞われていたことになります。中でも元禄・宝暦・天明・天保年間の凶作は「東北の四大飢饉」と呼ばれており、島守家文書には、天明3年（1783）「五穀実ラズ、蕪大根二至ルマデ皆無ナリ」、天明4年には「子供ヲ殺シテ喰ウナド言語ニタイタリ」といういたましい状況が記されています。

また、他の天明4年の記録からは、山根通村（鳥屋部村、角柄折村、金山沢村、筋違村、赤保内村）五力村の家数が207軒から65軒と3分の1に、人口が1196人から316人と4分の1に減っていることが分かっています。

飢饉は天災だけではなく人災の側面もあり、藩による米穀統制、穀改め（生産物の搾取）、備荒（凶作に対する準備）貯蓄の不備など、農業政策の誤りが指摘されていますが、大きな理由は水田耕作の不適地であったことで、まずは水の条件を良くすることが重要でした。その水利事業に半生を捧げた人として、八戸藩士の蛇口伴蔵が知られています。

その計画は遠大なもので、文久元年（1861）には階上岳中腹を源とする寺下川と石ノ倉の沢水（大渡川の源流）を引水し、蒼前平を開田してさらに鮫の蕪島あたりに注ぐ用水堰工事を行っています。この事業は残念ながら洪水によって未完成に終わりましたが、その後も志は受け継がれ、明治28年（1895）、大正2年（1913）と復旧が試みられました。そして平成15年（2003）に、国営八戸平原開拓建設事業として新井田川上流南郷区世増に世増ダムが完成し、ついに伴蔵の夢が実現したのです。

「階上早生そば」の普及

岩手県北から当地方まで雑穀生産が多かったのは、低温・日照不足・湿地などの悪条件に強かったからですが、中でも稗とソバは飢餓風（ヤマセ）の吹く地には貴重な主食代わりでした。

ソバは大黒様やおしらさまの年とり、粟穂刈などの年中行事に欠かせない食糧で、正部家奨氏所蔵文書の「年中行事書留」にも、蕎麦餅、蕎麦の粉、蕎麦切として記されており、ハレの日などに食されていました。

このソバですが、階上町の昔から伝わる種から選抜された品種が、大正2年（1913）の大凶作をもたらした冷害気象下でも相当の収量が得られ、青森県農業試験場での成績も優良で、大正7年には「階上早生」と命名され、ソバでは青森県で唯一の奨励品種に採用されています。そして平成18年（2006）、町内有志が階上ブランドづくりの一環として「階上早生階上そば」普及に着手、知名度も着実に高まっています。

近代から町制施行までの農業

近代に入り、明治33年（1900）に「耕地整理法」が公布され、農業協同組合の組織改編や「食糧調整法」の施行など、農業における近代化政策が進められますが、真の意味で農村が大きな変貌をとげていくのは昭和20年（1945）の終戦以降でした。

昭和20年12月9日に「農民解放に関する指令」が発せられ、翌21年11月からは「自作農創設特別措置法」が施行、小作人（地主から土地を借りて農耕していた農民）は自作農民として認められ、「改正農地調整法」で農地の87パーセントが自作地になりました。

その後、高度経済成長政策の農業版として「農業基本法」が制定されたのが昭和36年（1961）で、それ以降、日本の農政はプラスアルファ型という複合経営が奨励されるようになります。また、昭和45年に突然打ち出された減反政策によって休耕田が広がるようになると、高収益をもたらす品種改良が重ねられ、主食のコメは食糧としてよりも嗜好品のように味を競うようになりました。

馬耕鋤による土起し『階上町史 通史編Ⅰ』から

山里の産業史【略年表】

安政　4年	【1857】	八戸藩士蛇口胤年（伴蔵）、水運開発事業の願文を寺下観音に納める。
文久　元年	【1861】	蛇口用水、寺下、石ノ倉の両所から蒼前平に達する。
明治20年	【1887】	角柄折に私立養蚕伝習所が開設される。
明治35年	【1902】	八戸の政治家、奈須川光宝と関春茂が蛇口水堰の復旧を試みる（のち2年ほど蒼前平に稲が作付される）。
大正　7年	【1918】	大正2年の大凶作をもたらした冷害気象下でも在来品種のソバが相当の収穫量を得られ、同4年の試験場での試験で優れた風味であったため、この年「階上早生」と命名される。
昭和　8年	【1933】	農林省主催、全国馬匹博覧会に東北代表として出品された軽乗馬「藤代号」が日本一の名誉賞を獲得（地代所清蔵氏所有馬）／階上早生が青森県奨励品種に採用される。
昭和 11年	【1936】	鳥屋部に乳牛（ホルスタイン種）導入。
昭和 14年	【1939】	葉たばこの栽培が始まる。
昭和 18年	【1943】	階上農業会設立。
昭和 23年	【1948】	階上村農業会が解散。階上村農業協同組合、階上村第1農業協同組合、道仏農業協同組合の3組合が設立。
昭和 26年	【1951】	保温折衷苗代普及される／第1回階上村乳牛品評会開催／新田、神子沢地区65.9haに15戸入植。
昭和 29年	【1954】	霜害により農作物被害甚大。
昭和 33年	【1958】	階上村農業協同組合が合併設立（酪農協、第1農協、道仏農協、階上農協が合併）。
昭和 35年	【1960】	てんさい（ビート）の栽培が行われる（昭和42年まで）。
昭和 37年	【1962】	農業共済事業村移譲となる。
昭和 42年	【1967】	第1次農業構造改善事業着工（昭和44年完了）。
昭和 45年	【1970】	米の生産調整が始まる。
昭和 46年	【1971】	稚蚕共同飼育所が設置される／農村集団電話が開通／里山再開発事業を実施（林道5路線昭和48年完了）。
昭和 48年	【1973】	農業共済組合の合併により三八農業共済組合が発足／ながいも栽培が行われる。
昭和 51年	【1976】	農林大臣に八戸平原総合農地開発事業を申請／異常気象により水稲平年作の56%減収。
昭和 53年	【1978】	国営八戸平原総合開拓事業に伴い石鉢地区にモデル圃場完成（平成2年まで）。

「海の産業史」

縄文時代の漁労

今から約1万2千年前から1万年間続いた縄文時代の早期には、気候の温暖化が進んで極地や氷河の氷が溶け出し、それに水面の膨張作用も加わって海面が上昇したため、内陸深くまで海が進入して大きな入江を形成しました。

階上町域でいえば、寺下遺跡や白座遺跡、滝端遺跡などから貝塚（縄文時代の人々が食べた貝がらや魚、獣の骨が捨てられて層になった場所）が発見されています。

また、平成16年（2004）に階上町教育委員会で行った発掘調査の結果、寺下遺跡の貝塚についての報告によれば「寺下の貝塚からはエゾイガイ、レイシガイ、イボニシ、カサガイなどの岩礁性の貝が多くみつかったことから、人びとは春から秋にかけて海に出かけ浅瀬や岩陰などで潮干狩りをしていたと思われる。魚ではタイやフグ、サメ、イルカなどがみつかり、釣針、銛、ヤス、浮石といった漁具も出土している。沖合に生息する魚もいることから丸木舟を使い、釣針による釣漁、大型の魚や海獣（アシカなど）には銛、ヤスなどでの突漁、さらには浮石、錘を用いた網漁も行なっていたものと考えられる。漁場、魚の生態などにより漁の仕方も変えていたのであろう」と記されています。

藩政期の漁業

縄文時代の貝塚の傍には住居跡も発見されていますが、やがて村落ができて、ほかの村落と交流する頃になると、採藻と製塩で内陸部との交易に結びついてくるようになりました。

そして、入会漁業権（地域住民が特別な権利をもって一定の漁場で仕事ができること）が成立する江戸時代に入り、漁労は産業として成り立っていきます。江戸や大坂の消費市場と結び付いてマス・タラ漁業が発達し、長崎貿易では中国向けの輸出品として、煎海鼠（干しナマコ）、干鮑（干しアワビ）、コンブなど俵物の生産が行われました。「八戸藩御勘定所日記」には、天明4年（1784）6月7日に長崎俵物の買い付けの役人を各浦へ派遣したことや、同年9月9日に長崎俵物御用のため浦乙名（村の代表者）を森岡（盛岡）へ派遣したこと、享和元年（1801）には白干鮑、煎海鼠が不足していることなどが記されています。

八戸地方から上北地方にかけて特筆されるのは、干鰯・〆粕・魚油に加工されたイワシ網漁が盛んだったことです。イワシは大群をなして回遊してくるため、北浜から白銀海岸までの砂浜では地曳網で大量に捕獲されました。

階上町の東の海岸部は天然の良港として早くから開け、延享4年（1747）の「浦数覚」には、小船渡（小舟渡）・道仏・大蛇が八戸廻の代表的な浦（湾）に数えられています。

また、「八戸御領内絵図」には、小舟渡海岸がしばしば藩主の浜遊びの場所とされ、嘉永2年（1849）には引網の見学が行われたことが記されています。

ただし、砂浜が少なく岩礁の多い当町では、アワビ・ウニ・コンブ・ワカメなどの磯物漁と、刺網や延縄によるソイ・アブラメ・ヒラメ・カレイなど小規模な漁が行われていた程度と思われます。そのために漁民は昔から出稼ぎに行っていたらしく、『階上村小舟渡部落沿革』によると、明治20年（1887）頃は北浜方面（主に上北・三沢）へ集団でイワシの引網に出かけていたということです。

沖合漁業の発達と出稼ぎ

明治維新による文明開化は漁業の近代化にも及び、遅れていた八戸地方の漁業も明治20年代に入ると、手繰り網・棒受け網・延縄・刺網・カツオ釣りなど沖合漁業が普及してきました。

ただし、明治25年（1892）11月に農商務省（現農林水産省）によって行われた全国道府県別の「水産事項特別調査」によれば、青森県の漁業戸数は1万1663戸、漁獲高は31万372円で、そのうち三戸郡（市川村・下長苗代村・小中野村・湊村・鮫村・階上村）は全体の10パーセントにも満たない状況でした。

階上に巻網（アグリ網とも呼び、イワシをとる漁法）が伝わったのは明治31年といわれ、「小舟渡の民俗」青森県立郷土館調査報告書によれば、大漁の時は「一夜明けると海岸一帯はイワシだらけで、道路はほとんどなくなり、家の庭先まで積みあげられた」という時代もありました。

しかし、相変わらず出稼ぎは多く、明治30年代は北海道へ、大正の初めには樺太へ行きニシンやサケ漁を、大正10年頃には遠洋漁業でカムチャツカ、北千島のカニ工船に乗っていたということです。

遠洋漁業と200カイリ問題

戦後の昭和24年（1949）に「新漁業法」が公布され、27年には北洋漁業が再開、35年には北洋海域での中型底引き網漁への転換があります。北転船の始まりであり、昭和40年（1965）には300トンの大型船も出現するようになり、44年には100トン以上のイカ釣り大型船の大臣承認制、47年にはサケ・マス延縄漁業が流し網に転換するなどの話題がありました。

しかし、現代における漁業問題といえば何といっても200カイリ問題でした。昭和52年（1977）3月1日に米ソが200カイリ規制の実施を発表、3月18日には日米漁業協定に調印しました。しかし、北洋漁業に関しては、スケソウダラを中心に40パーセント以上をソ連海域に依存しており、本土最大の北洋漁業基地八戸にとっては、まさに死活問題でもありました。

世界の趨勢は200カイリ時代へ突入しており、孤立から脱するため日本も5月2日に200カイリの実施に踏み切りました。不安は現実となり、昭和50年にはスケソウの水揚げ数量が18万2000トン（65億1000万円）と八戸港の総水揚げの3分の1を占めていたものが、54年には9900トン（11億9000万円）となり、八戸港全水揚げの1・42パーセントにすぎないものとなりました。

やがて「採る漁業からつくり育てる漁業」への転換が求められていくようになります。

箱メガネによるウニ漁（階上町町制施行20周年記念写真集『ふるさと階上』から）

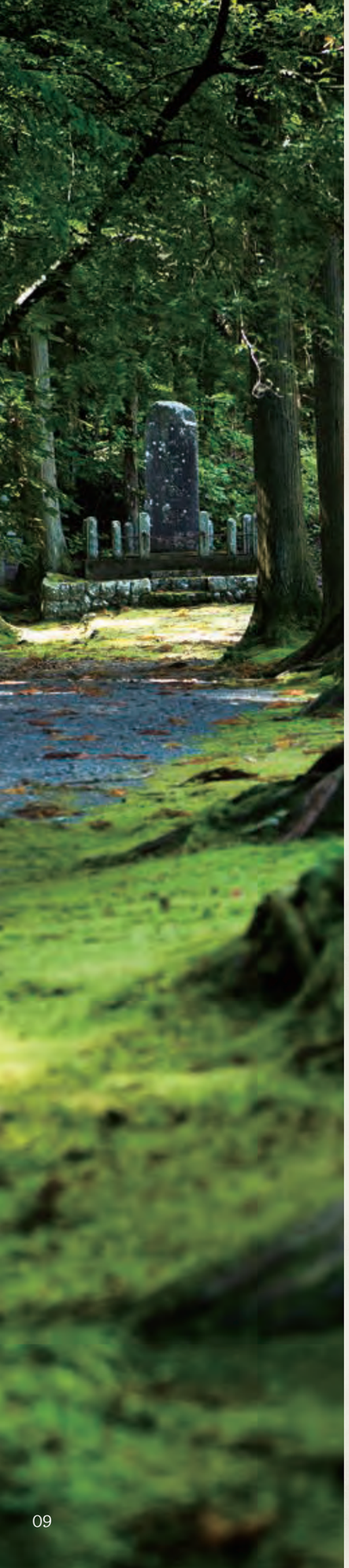
海の産業史【略年表】

文化 4年	【1807】	八戸藩浦堅め（海岸防備）の場所として小舟渡海岸を定める（藩内6カ所）。
安政 元年	【1854】	小舟渡海岸に八戸藩の台場（砲台）が築造される。
慶応 4年	【1868】	小舟渡お台場の防備が強化される。
明治 6年	【1873】	海岸に面する道仏村（現在の大字道仏）では塩釜（製塩工場）が6カ所にあった。
明治29年	【1896】	三陸沿岸一帯に大津波襲来（死者21名、家屋流失1軒、家屋全半壊5軒、納屋流失12軒、漁船流失13隻など）。
昭和 8年	【1933】	三陸沿岸大津波襲来（死者2人、行方不明者1人、家屋流失10軒、納屋流失12軒、漁船流失99隻など）。
昭和18年	【1943】	階上漁業会設立。
昭和24年	【1949】	小舟渡、榊、荒谷、大蛇の各漁業会が設立される。
昭和27年	【1952】	大蛇、追越、榊漁港階上村管理第1種漁港に指定。
昭和28年	【1953】	大蛇漁港整備県単独事業着工。
昭和34年	【1959】	小舟渡廿一に無人灯台を設置。
昭和35年	【1960】	チリ地震津波襲来、被害甚大（漁船、漁網など）。
昭和36年	【1961】	階上漁業協同組合が合併設立（小舟渡、榊、荒谷、大蛇の各漁業会が合併）。
昭和37年	【1962】	榊漁港整備県単独事業着工。
昭和39年	【1964】	追越漁港局部改良工事着工。
昭和43年	【1968】	十勝沖地震、津波襲来、沿岸の被害甚大（漁網など）。
昭和44年	【1969】	小舟渡漁港改修事業着工。
昭和46年	【1971】	大蛇漁港局部改良工事着工／第1回観光漁業祭開催（昭和50年まで）。
昭和47年	【1972】	榊漁港局部改良事業着工。
昭和48年	【1973】	コンブ、ワカメ、ホヤの増殖事業が始まる／小舟渡漁港改修工事着工。
昭和49年	【1974】	小舟渡漁港関連道路が開通。
昭和52年	【1977】	階上漁村センターを新築。
昭和54年	【1979】	種苗供給施設の完成（大蛇海岸）／県立栽培漁業センター（第1期工事）追越地区に完成。

階上は心のふるさと

"ふるさと"は温かい言葉、
包み込むような懐かしい匂いがします。
そして"懐かしい"という言葉は、
慣れ親しむという意味の「なつく」を語源としています。
また、「千年も前の懐かしさ」と言うことがあるように、
人は知らないはずの懐かしさも想像することができます。
同じように"ふるさと"は、
そこに生まれた人だけではなく
愛着を持ったすべての人々の数だけあります。

昭和55年の町制施行で「階上町」になって40年。
町には多くの移住・転入者が住むようになりました。
その人々も共に、この40年の歴史を振り返り、
ふるさとへの理解を深めていただきたいと思います。



【町制40年の歩み】階上は心のふるさと

昭和55年 1980
- 町制施行により「階上町」となる。
- 町民より公募「町の花・木・鳥」及び町民憲章を制定する。
- 町内初の婦人消防クラブ（田代）結成。
- 冷害による被害8億6300万円に達する。

昭和56年 1981
- ボランティアサークル「けやき」が結成される。
- 地域集団電話から一般電話となる。
- 多目的研修センター「潮風荘」が完成。
- 県立栽培漁業センターが完成（アワビの種苗生産開始）。
- 第1次町総合振興計画を策定。
- 登切火防団が町消防団第5分団として発足。
- 道仏中学校校舎が完成。

昭和57年 1982
- 役場庁舎を天当平に移転新築。
- 豪雨により9億8200万円の被害を受ける。
- 青森銀行階上支店が開業。
- 石鉢ふれあい広場が完成。
- 道仏中学校体育館が完成。
- 駅前郵便局が移転新築。

昭和58年 1983
- 田代えんぶり保存館が完成。
- 南郷村島守地区で発生した山林火災が金山沢地区に飛び火18ha焼失（被害額約1千万円）。
- 民俗資料収集館がオープン。
- 第1回むつ湾一周駅伝競走大会で町の部準優勝（大会は平成4年まで）。
- 階上岳に漁業無線局が完成。
- 中央体育館がオープン。

昭和59年 1984
- 農村婦人の家が完成。
- 青森放送の階上テレビ局が開局。
- 老人福祉センターがオープン。
- 町消防団第2分団（田代）が全国消防操法大会で優良賞受賞。
- 平内えんぶり保存館が完成。
- 農村総合整備モデル事業が始まる。
- ワードプロセッサを役場に導入。

昭和60年 1985
- 石鉢小学校校舎が完成。
- 町消防団が県知事表彰旗を受賞。
- 勤労者体育センター（現町民体育館）がオープン。

1980〜1990
〔10周年まで〕昭和55年〜平成2年

「町の花・木・鳥」や町民憲章が制定され、第1回はしかみいちご煮祭りが開催されるなど、町の形ができていった。

町制施行で新しい看板を掲げる荒谷町長（昭和55年）

第1回はしかみいちご煮祭り（昭和61年）

役場庁舎が完成（昭和57年）

「はしかみ101フェスティバル」でのロックコンサート（平成2年）

第1回町内駅伝競走大会（昭和62年）

豪雨で道仏川の河岸決壊。水田の畦畔流失（昭和57年）

- 蒼前集会所が完成。
- 誘致企業第1号「島田縫製㈲階上工場」が操業開始。
- 国際森林年町制施行5周年記念植樹祭を開催。
- 第37回郡総合体育大会が本町で開催される（軟式野球、陸上男子優勝）。
- 町老連創立20周年記念町老人福祉大会を開催。
- 金山沢地区に河川プールがオープン。
- 第14回国勢調査（人口1万1547人、伸び率県下1位）。
- 正部家奨氏が「階上町史」を発行する。
- 町制施行5周年記念式典を開催。
- 第1回肉牛共進会を開催。

昭和61年 1986
- 町初のロープ塔が登切小学校スキー場に完成。
- 鳥屋部えんぶり保存館が完成。
- 第1回はしかみいちご煮祭りを開催。
- 道仏中新体操部東北大会6連勝達成。
- 観光列車「町民号」岩手県へ運行される。
- 登切小学校に緑の少年団を結成。
- 第1回健康づくり推進大会を開催。
- 八戸圏域水道企業団設立、旧役場庁舎に階上事業所設置。
- 患者輸送バスを民間委託。

昭和62年 1987
- 赤保内駒踊保存館が完成。
- 大蛇小学校校舎、体育館新築落成。
- 「はしかみの女（ひと）」レコードになる。
- 大蛇漁港に海産物簡易加工処理センターが完成。
- 階上岳にアマチュア無線レピータ局が開局。
- 第1回町内駅伝競走大会を開催。
- 第1回ファミリーマラソン大会を開催（平成8年まで）。
- 田代小・中学校校舎が移転新築される。
- 第10回産業と文化の祭「臥牛祭」開催。
- ほうれんそう雨除けハウス栽培が行われる。
- パーソナルコンピューターを役場に導入。

昭和63年 1988
- 道仏神楽保存館が完成。
- 野沢スキー場が完成。
- 防災行政用無線局が開局。
- 蒼前地区コミュニティ公園が完成。

- 大渡地区土地改良総合整備事業完成（昭和59年着工）。

平成元年 1989
- 町消防団が日本消防協会表彰（表彰旗）を受ける。
- 金山沢地区に「ふるさと河川公園」が完成。
- 階上町国民健康保険事業施行30周年記念式典を開催。
- 一部スクールバスを廃止して、路線バス無料乗車券を交付。

平成2年 1990
- 「光のふるさと創造事業」により階上中学校にグラウンド照明施設、西部地区に農産物加工施設、東部地区に海産物加工施設を整備。
- 階上誕生101年、町制施行10周年記念式典を挙行。記念植樹、タイムカプセル埋設、モニュメントの作製、はしかみ小唄制定、記念パレード、はしかみ101フェスティバルを実施。
- ヒラメ稚魚放流が行われる。
- 小舟渡小学校校舎・体育館が完成。
- 第15回国勢調査（人口1万2959人、伸び率県下第1位）。
- 笹山秀雄氏第11回北京アジア大会レスリング競技フリースタイル52kg級で銀メダル獲得。
- 第2次階上町総合振興計画を策定。

平成3年 1991
- 春秋の清掃指導を廃止。町内一斉クリーンアップ作戦を始める。
- 合併処理浄化槽補助金交付事業が始まる。
- 平内鶏舞・えんぶり組国立劇場で民俗芸能を上演。
- 第43回郡総合体育大会本町で開催（陸上男女、バレーボール女子、野球、サッカー優勝）。
- がん検診（胃、大腸、肺、子宮、乳がん）が無料となる。
- 突風により校舎、民家等被害を受ける（9月28日、最大瞬間風速38・8m）。
- 階上町ゲートボール協会設立。
- 第1回町長旗争奪ゲートボール大会を開催。
- 青森県県葉たばこ共進会を本町で開催。
- 町職員海外視察研修制度が始まる。

平成4年 1992
- 第1回新年互礼会が開催される。
- 児童数の増加により石鉢小学校新増改築完成。
- 八戸圏域水道企業団階上事業所が廃止され、八戸ブロックに統合。
- 町木「けやき」の造林始まる。
- 町民プールがオープン（屋内50mは県内初）。
- 第1回つつじマラソン大会を開催。

1990〜2000
〔20周年まで〕平成2年〜平成12年

「道の駅はしかみ」や「フォレストピア階上」がオープン。人口が1万5000人を突破。

第1回つつじマラソン大会（平成4年）

町民プールがオープン（平成4年）

新装オープンした「ハートフルプラザ・はしかみ」を主会場に開催された「臥牛祭」（平成4年）

金山沢小学校児童による松館川の水質調査「せせらぎウオッチング」（平成6年）

人口1万3000人突破を記念して開催された「13000フェスティバル」（平成5年）

青森・岩手県境交通安全推進大会20回目を記念して行われた小舟渡小学校児童による風船メッセージ（平成6年）

- 農村環境改善センターを老人福祉センターに併設完成し「ハートフルプラザ・はしかみ」としてオープン。
- 第13回北奥羽選抜軟式野球選手権大会で階上クラブが優勝。
- 老人保健法による保健事業推進功労団体として町が厚生大臣表彰受賞。
- 役場完全週休2日制とする。

平成5年 1993
- 無火災365日を達成。
- 文部省調査統計功労により町教育委員会が文部大臣賞を受賞。
- 不燃物最終処分場が完成。
- ふるさとにぎわい広場が建設省の「道の駅」に登録される。
- 金山沢小学校の新校舎・体育館が完成。
- 第62回全日本アマチュア自転車競技選手権ロードレース大会が開催される。
- アクティブはしかみ13000フェスティバルを開催。
- 階上駅前商店街にスズラン灯（63基）を設置。
- 石鉢小学校が第13回全日本学童軟式野球大会県大会で優勝し全国大会に出場。
- ハートフルプラザ・はしかみに中央公民館を移転し旧中央公民館を赤保内地区公民館と改称。
- 記録的な冷害により甚大な被害（水稲作況指数2、農作物被害総額約4億3千万円）。
- 田中和五郎氏（鳥屋部）青森県長寿者第1位となる（104歳）。
- 総合運動公園整備事業が始まる。

平成6年 1994
- 役場庁舎完全分煙を実施。
- 中学生海外派遣事業・小学生国内派遣事業が始まる。
- 階上小学校新築校舎・体育館が完成。
- 郷土誌「はしかみ」50号が発行される。
- 八戸警察署階上交番が完成。
- クリエイティブ・アブラメーn町民フォーラムを開催し町の魚「アブラメ」を制定。
- 都市計画区域に指定される。
- 不燃ごみ収集を「かご収集方式」とする（県内初）。
- 大蛇火防団が町消防団第6分団として発足。
- 町民海外研修制度が始まる。
- 三陸はるか沖地震（12月28日マグニチュード7・5）及び余震（平成7年1月7日）襲来、被害甚大（負傷者8人、住家半壊30軒、一部損壊450棟ほか）。

【町制40年のあゆみ】階上は心のふるさと

平成7年▼登切小学校の新校舎・体育館が完成。
1995
▼町営住宅つくしケ丘団地が完成。
▼㈶はしかみ町産業振興会設立。
▼観光物産館・ふるさとにぎわい広場「道の駅はしかみ」オープン。
▼第1次階上町行政改革大綱を策定。
▼十文字友和氏(追越)が大相撲春場所三段目全勝優勝。
▼八戸東消防署階上分署が完成。
▼追越地区にアスナ公園がオープン。
▼町民プールを温水化とする。
▼町制施行15周年記念式典を挙行。記念パレード、町の魚「アブラメ」放流、記念植樹、メモリアルフェスタを実施。
▼階上町戦没者追悼式が行われる。

平成8年▼階上中学校の新校舎・体育館が完成。
1996
▼金山沢コミュニティーセンターが完成。
▼笹山秀雄氏(駅前)アトランタオリンピックレスリング競技に出場。
▼階上中学校女子体操部・ゆかだんユニホッケーチームが全国大会に出場。
▼第1回階上町産業振興祭を開催。
▼石鉢火防団が第7分団(石鉢)として発足。
▼公衆衛生活動により、町保健協力員会が厚生大臣表彰を受賞。
▼「階上町史」史料編Ⅰを発行。

平成9年▼金山沢簡易水道が完成。
1997
▼階上みょうたん柿ワインを発売。
▼階上都市計画用途地域が決定。
▼第48回青森県植樹祭を登切小学校で開催。
▼階上クラブ(軟式野球)が東日本軟式野球大会に出場。
▼高雄市(台湾)の民族国民中学校が来町し、階上・道仏両中学校と交流を図る。
▼赤保内小学校の新校舎・体育館が完成。
▼大蛇小学校が大蛇駅周辺の清掃活動で連輸大臣賞を受賞。
▼十文字改め階ケ嶽が町初(明治以降)の関取となる。

平成10年▼第9回全国ユニホック大会で階上町女子優勝。
1998
▼地方自治法施行50周年記念シンポジウムｉｎはしかみを開催。
「郷土の偉人・太田広城」を語る。

1990〜2000
【20周年まで】平成2年〜平成12年

「道の駅はしかみ」がオープン(平成7年)

階上岳登山口に「フォレストピア階上」がオープン(写真左奥／平成10年)

滝端遺跡で縄文後期の頭部はめ込み式土偶「膝を抱える土偶」が発掘される(平成10年)

人口1万5000人を突破、記念として町の木「つつじ」が贈られる(平成11年)

階上岳登山口に「臥牛の塔」が完成(平成12年)

町制施行20周年を祝う「くす玉割り」(平成12年)

▼鳥屋部地区住宅用地「トウィンクルタウン大鶴音」が完成し分譲を開始。
▼「フォレストピア階上」が登山口にオープン。
▼交通死亡事故ゼロ千日を達成(7月31日)。記念交通安全町民大会を開催。
▼西光寺ナニャドヤラ保存会が第48回全国民俗芸能大会に出演。
▼東北地区生涯学習まちづくり研究大会を階上町で開催。
▼階上町総合防災訓練を初めて実施。
▼滝端遺跡で縄文後期の頭部はめ込み式土偶が発掘される。

平成11年▼役場業務をコンピュータ化。総合行政システムが稼働。
1999
▼町の元気のために地域振興券交付事業が開始される。
▼住民登録人口1万5000人を突破(12月3日)。
▼階上都市計画道路が決定。
▼町民プールが入場者1万人を突破。
▼大蛇地区の漁業集落排水処理施設が完成。

平成12年▼町の観光のシンボルとして「臥牛の塔」を設置。
2000
▼第2次階上町行政改革大綱を策定。
▼第3次階上町総合振興計画を策定。
▼道仏小学校校舎が完成(町内小学校のすべてが近代化となる)。
▼十文字関が幕内に昇進する。
▼石鉢小学校グラウンドに災害対策緊急給水施設が完成。
▼階上町文化協会設立。
▼町制施行20周年式典を挙行(シンボルキャラクターの制定・盆踊り大会・記念写真集の発刊・子ども議会等)。

▼「階上町史」史料編Ⅱ・通史編Ⅰを発行。
▼市町村合併協議会の設置を請求する県内初の住民発議がされる(12月5日)。
▼大蛇小学校が学校給食文部大臣表彰を受賞。

平成13年▼蒼前地区の住所変更(町名整理事業)が行われる。
2001
▼八戸市・階上町・福地村・南郷村合併検討協議会(任意)が発足する。
▼「階上町史」通史編Ⅱを発行。
▼道仏婦人会の花壇整備活動が認められ国土交通大臣表彰を受賞。
▼耳ケ吠東コミュニティセンター(愛称ふれあい館)が完成。

平成14年▼はしかみＵＨＣ(ユニバーサルホッケーチーム)が全国大会低学年混成の部で優勝。
2002
▼学校週5日制を完全実施。

平成15年▼市町村合併住民説明会を町内9会場で実施。
2003
▼階上町が八戸市、福地村、南郷村、名川町、南部町、田子町と合併することの賛否を問う住民投票が実施される(2月9日執行)。
▼八戸地域合併協議会(法定)が発足。
▼石鉢地区に石鉢ふれあい交流館が完成。
▼鳥屋部地区に森の交流館が完成。
▼冷害により被害を受ける(作況指数14、農作物被害総額約1億3200万円)。

平成16年▼はしかみＵＨＣが全国大会小学生高学年の部で優勝。
2004
▼「階上町が八戸市、福地村、南郷村、名川町、南部町、田子町及び新郷村と合併することの同意を求めることについて」の議案が賛成少数により否決され、八戸地域合併協議会から離脱。
▼八戸地域合併協議会が廃止される。
▼寺下遺跡から鹿角製腰飾りが発掘される。
▼しるし平〜石倉線の登山車道が開通、階上岳の道路整備が完了する。
▼ＪＲ階上駅の開業80周年を祝う記念行事が開催される。

平成17年▼第3次階上町行政改革大綱を策定。
2005
▼階上岳つつじの森キャンプ場が完成。
▼第1回階上町歴史講座が開催される。
▼列車運行システムの近代化に伴い、ＪＲ階上駅の腕木式信号機が80年の役割を終えて撤去される。
▼青色回転灯を搭載の防犯パトロール車の出発式が行われる(県内2例目)。
▼大蛇地区漁業集落環境整備事業(集落道3路線、漁業集落排水処理施設、雨水排水路2カ所、緑地広場2カ所)が完成。
▼奇峰学秀作の木彫仏像が鳥屋部地区で発見される。
▼階上町連合婦人会が創立50周年を迎える。
▼第1回階上岳横断ウォークが行われる。
▼協働のまちづくり町民会議が発足。

平成18年▼日韓スポーツ大会(韓国・麗水市)で大前典男氏(平内)と谷川保博氏(金山沢)が金メダルを獲得。
2006

2000〜2010
【30周年まで】平成12年〜平成22年

階上町協働のまちづくり条例が制定され、「階上早生」階上そばのブランド化が始まる。

第1回合併検討協議会(平成13年)

八戸南道路の八戸南インターチェンジ〜種差海岸階上岳インターチェンジ間が開通(平成19年)

第1回階上早生新そば祭り(平成19年)

「階上早生」階上そばの商標登録される(平成20年)

協働のまちづくり住民懇談会(平成19年)

▼第21回いちご煮祭りで「元祖いちご煮」が限定販売される。
▼地域アニメーター養成のための「ふるさとかだり塾」を開講。
▼十文字関が大相撲九州場所で初の十両優勝。
▼階上そば振興委員会「階上そばりえ」を設立。
▼階上ブランドの確立を図るため、階上の味普及推進協議会を設立。
▼榊漁港漁場機能高度化事業が完成。

平成19年▼「階上町協働のまちづくり条例」を制定。町内6カ所で協働のまちづくり住民懇談会を実施。
2007
▼八戸南道路の八戸南インターチェンジ〜種差海岸階上岳インターチェンジ間3・4㎞が開通。
▼階上(種市)岳に完成した八戸局が地上デジタル放送を開始(8月1日)。
▼イベント列車「風っこシーガル号」が階上駅〜八戸駅間で運行。
▼田代地区振興計画実行委員会が、平成19年度豊かなむらづくり全国表彰事業で東北農政局長賞を受賞。
▼第1回階上早生新そば祭りを開催。
▼ＪＲ階上駅前に腕木式信号機を復元設置。

平成20年▼新成人が組織する成人式実行委員会企画運営の成人式が行われる。
2008
▼有形文化財9点、無形民俗文化財2点、天然記念物1点を町文化財指定する。
▼町連合婦人会が町民歌「光のふるさと」に健康体操の振り付けをする。
▼原油高騰対策として福祉灯油券を発行。
▼協働のまちづくりアクションプランが完成。
▼全19行政区で作成した「地区まちづくり計画」が完成。
▼階上駅前に「階上駅信号小屋」を復元。
▼階上ブランド確立のため「階上早生」階上そばの商標登録する。
▼石鉢ふれあい交流館に町民サービスコーナーが設置される。
▼町営住宅榊山団地の移転新築工事完成。

平成21年▼八戸圏域水道企業団管轄区域において断水事故が起きる(1月1日)。
2009
▼石鉢女性消防クラブが青森県知事表彰を受賞。
▼階上中学校の耐震化工事が完了。
町内全小・中学校の耐震化完了。
▼町民の交通手段としてコミュニティバスを本格運行。
▼茨島浄化センターの公共下水道の供用開始。
▼日米まちづくりフォーラムｉｎはしかみが開催される。

【町制40年の歩み】階上は心のふるさと

平成21年 2009
- 広報はしかみ600号が発行される（第1号は昭和30年9月15日）。
- 八戸市との定住自立圏形成協定を締結。
- 臥牛の郷生活研究連絡協議会がふるさとの伝統料理集「階上町の伝統料理」を発刊。

平成22年 2010
- 町初の女性副町長（久保和子氏）が選任される。
- 第4次階上町行財政改革大綱を策定。
- 南米チリ中部で発生した巨大地震で、青森県から宮城県にかけて大津波警報が発令。
- 第4次階上町総合振興計画を策定。
- 階上町名誉町民条例を制定。第1号に上野正蔵氏。
- はしかみ総合スポーツクラブ設立。
- 登切小学校が閉校（135年の歴史に幕）。
- 町立学校給食センターを新築、オープン（HACCP（ハサップ）概念を導入したオール電化、ドライ方式）。
- 町制施行30周年記念式典を開催。
- 交通死亡事故ゼロ千日を達成（5月28日）。
- 旧中央保育所跡地にあおぞらテニスコートオープン。
- 三八支部消防操法大会で第5分団（登切）がポンプ自動車の部で優勝。第26回青森県消防操法大会に出場し準優勝。
- 交通死亡事故ゼロ3年を達成（8月31日）。
- ふるさとはしかみ会設立。
- 道の駅はしかみに太陽光発電システムを設置。
- 大蛇・小舟渡地区に町内初の少年消防クラブ結成。

平成23年 2011
- 町消防団が消防庁長官表彰旗を受賞。
- 東日本大震災発生。東北地方太平洋沖地震による大津波襲来。（3月11日マグニチュード9.0、階上町震度5強）人的被害なし、住家、店舗、浜小屋等全半壊92軒、漁船流失・損壊124隻他被害甚大。被害額13億3600万円。
- 金山沢小学校が閉校（86年の歴史に幕）。
- 元幕内十文字が引退。
- 防災無線をデジタル化・全国瞬時警報システム（J－ALERT）を整備。
- 東日本大震災からの復興を祈願し、「がんばろう！はしかみ復興市－in大蛇」を開催。

2010～2020
〔40周年まで〕平成22年～令和2年

東日本大震災発生。三陸復興国立公園に指定されたほか、「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」がオープンした。

登切小学校閉校式典（平成22年）

「わっせ交流センター」での新そば祭り（平成24年）

移転新築した大蛇三地区集会所（平成25年）

八戸南道路が全線開通（平成25年）

階上町自主防災組織連絡協議会を設立（平成26年）

はしかみ健康フォーラムでの「健康宣言」（平成29年）

- 台風15号による大雨で河川・道路に被害。
- 自主防災組織が全行政区で組織化され、町内世帯カバー率100％となる。

平成24年 2012
- 階上町震災復興計画を策定。
- 戸籍管理をシステム化。
- 町消防団第1分団屯所を移転新築。
- 旧登切小学校を改修し「わっせ交流センター」がオープン。
- 三八地区消防操法大会で第1分団（小舟渡）がポンプ自動車の部、小型動力ポンプの部の両部門で優勝。第27回青森県消防操法大会に両部門出場し、小型ポンプの部で準優勝。
- 階上町赤十字奉仕団が結成50周年を迎える。

平成25年 2013
- 階上－ICが完成し、復興道路として八戸南道路が全線開通。
- 階上町津波避難計画を策定。
- 八戸学院大学と連携協力協定締結。
- 大蛇三地区集会所が完成。
- 道仏公民館耐震補強・改修工事が完了。
- 沿岸監視カメラ設置、映像公開を開始。
- 原因不明の連続林野火災発生（29件、9.16ha焼失）。
- 階上岳・階上海岸ごみ一掃大作戦が行われる。
- 階上岳・階上海岸が三陸復興国立公園に指定される。
- 階上町ふるさと大使に古屋敷裕大さんが就任。
- 光ブロードバンドサービス町内カバー率100％となる。
- 第1回素人そば打ち段位認定階上大会が開催される。
- みちのく潮風トレイル北部ルートが開通。
- 階上駅新駅舎が完成。

平成26年 2014
- 記録的な大雪により農作物等が被害を受ける。
- 階上町庁舎耐震補強・改修工事が完了。
- フォレストピア階上リニューアルオープン。
- 三八地区消防操法大会で第1分団（小舟渡）がポンプ自動車の部、小型動力ポンプの部の両部門で優勝。第28回青森県消防操法大会でも両部門で優勝。
- 階上町自主防災組織連絡協議会を設立。
- 第24回全国消防操法大会小型ポンプの部に第1分団（小舟渡）が出場し、敢闘賞受賞。佐京喜一2番員が優秀選手賞を受賞。

平成27年 2015
- 階上早生そば焼酎「早生のめぐみ」発売。
- 八戸学院大学、八戸学院短期大学と連携協力協定締結。
- 小舟渡少年消防クラブが消防長官表彰を受賞。
- 小舟渡女性消防クラブが青森県知事表彰を受賞。
- 町消防団第4分団屯所移転新築、ポンプ自動車更新。
- 旧金山沢小学校を改修し「金山沢水郷館」が完成。
- 階上町庁舎1階フロア改修工事完了、ワンフロアサービスが可能に。
- 階上町民文化祭において「階上の偉人展―太田広城の足跡を辿る―」を開催。
- 大蛇ざざ波歩道橋が完成。
- 道仏少年消防クラブ結成。

平成28年 2016
- 第5次階上町行財政改革大綱を策定。
- 階上町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定。
- 東日本大震災を風化させないためnever forget 3・11津波防災行事を開催。
- 大蛇少年消防クラブが消防長官表彰を受賞。
- 三八地区消防操法大会で第1分団（小舟渡）がポンプ自動車の部で優勝。第29回青森県消防操法大会に出場し、準優勝。
- 道仏交流センターが完成。

平成29年 2017
- 健康宣言を実施し、庁舎内禁煙となる。
- 有形文化財3点、天然記念物1点を町文化財指定する。
- 田代小中学校が閉校（95年の歴史に幕）。
- 第86回全日本自転車競技選手権大会ロード・レースが開催される。
- まちづくりコーディネーター養成講座「はしかみベース」を開講（全7回）。
- 交通死亡事故ゼロ千日を達成。（10月24日）
- 田代集会所が移転新築される。

平成30年 2018
- 階上早生生誕百周年を迎える。
- 第2次協働のまちづくり地区計画が完成。
- 太田広城生誕180年記念事業を開催（生家跡説明板設置等）。
- 海業支援施設「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」がオープン。
- 道仏中学校消防クラブ結成。
- 青森県立八戸水産高等学校と連携協定締結。
- 三八地区消防操法大会で第1分団（小舟渡）がポンプ自動車の部で優勝。第30回青森県消防操法大会に出場し、優勝。

第86回全日本自転車競技選手権大会ロード・レース開催（平成29年）

まちづくりコーディネーター養成講座「はしかみベース」第7回修了式での記念撮影（平成29年）

八戸工業大学感性デザイン学部の学生2人が制作した「階上早生」生誕100年の記念ポスター（平成30年）

19行政区で作成された「第2次地区まちづくり計画書」（平成30年）

角柄折の太田広城生家跡に設置された説明板除幕式（平成30年）

オープンした「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」（平成30年）

- 八戸工業大学と連携協定締結。
- 交通死亡事故ゼロ最長記録1343日を達成（10月2日）。

令和元年 2019
- 階上町ふるさと大使に古屋敷裕大さんを再委嘱。
- 役場庁舎などの敷地内全面禁煙を実施。
- 関係団体と空き家等の対策に関する協定を締結。
- 「階上町町勢要覧2019」を刊行。
- はしかみハマの駅あるでぃ～ば来場者が40万人を達成（9月28日）。
- 台風19号により観測史上最大の雨量を記録。
- 住民票・印鑑登録証明書・マイナンバーカードに旧姓（旧氏）の併記が可能に。
- 厚生労働省主催の「第8回健康寿命をのばそう！アワード」生活習慣病予防分野の自治体部門で階上町が「厚生労働大臣優秀賞」を受賞。
- 第5次階上町総合振興計画を策定。

令和2年 2020
- 交通死亡事故ゼロ1800日を達成（1月2日）。
- はしかみ健康フォーラムを開催。「厚生労働大臣優秀賞」受賞記念講演会で三浦雄一郎氏の講演が行われる。
- 階上交番が移転新築される。
- 第6次階上町行財政改革大綱を策定。
- 第2期階上町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定。

「第8回健康寿命をのばそう！アワード」生活習慣病予防分野で「厚生労働大臣優秀賞」受賞（令和元年）

交通死亡事故ゼロ1800日達成（令和2年）

特集1

言葉の化石

階上の地名を訪ねて

地名こそ、その土地の成り立ちを示す「言葉の化石」といえます。自分の住む場所の地名由来は何か、人によって見解は異なりますが、その背景には地形や生活文化があります。

階上町には約350の字名があるといわれていますが、時代の変遷とともに変わってきました。ここでは町民が住む土地に愛着を持ってもらえるように、現行行政地名8地区（五十音順）の地名と特徴的な小字名の意味を、写真とともに紹介します。

参考資料としては、郷土誌『はしかみ』52号～58号（平成8年～14年）に夏堀長五郎氏が、同書72号～（平成28年～）に杉山武氏が、それぞれ地名考を発表しています。

また、八戸高校・八戸東高校教諭だった松原健之助氏の『北奥羽南部地名解』や、志田博氏の『アイヌ語法と地名解』でも階上町の地名が考察されています。ここでは主に、夏堀長五郎氏と松原健之助氏の見解を参考にしています。

アイヌ語の表記は、独特な表音文字となりますので、それに近い片仮名にしています。

1 赤保内（あかぼない）

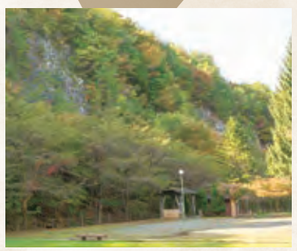
夏堀氏によると、アイヌ語の「アカ・ポン・ナイ」で、意味は「尾根・小さい・沢」（小さな尾根と沢）になります。

▶赤保内（あかぼない）／赤保内バス停付近で、遠くに階上岳の尾根と沢が見える。

▶蛭子（ひるこ）／蛭子は夏堀氏によるとアイヌ語の「シル・コ」で、意味は「水際の山・そこに」。

2 金山沢（かねやまざわ）

松原氏によると、「砂鉄の採取地」の意味になります。ほかに郷土誌『はしかみ』10号に滝沢石舟氏の「澤の湯見聞記」があり、今から800年前に小松重盛公が金山沢に身を隠し、蛇抜け穴あたりに金鉱を掘り当てて大金持ちになったこと、その金倉が軒を並べ壮観だったこと、小松家の倉なので地名が「小松倉」になったと紹介されています。



▶金山沢（かねやまざわ）／ふるさと河川公園の松館川沿いで、かつて蛇抜け穴のあったあたり。金山伝説がある。

▶小松倉（こまつくら）／コミュニティーバス停「小松倉」付近の景観。今も倉が多い。

3 田代（たしろ）

松原氏によると、「田を作り、税を納めるために開墾した土地」となります。江戸時代は久慈街道の駅馬（伝馬継所）が開かれていた交通の要衝で、十字路傍には「番屋」という地名もあります。

▶番屋（ばんや）／県道11号の番屋付近。現在は旧道になっている。

4 角柄折（つのがらおり）

▶蛇平（じゃたい）／夏堀氏によるとアイヌ語で「チャ・タイ」。意味は「枝状の岸・森」。前方に階上岳と森が見える。

▶石鉢（いしのはち）／松原氏によるとアイヌ語で「イ・シ・ハツ」で、意味は「その・大きな・ヤマブドウの果実」。写真は「ゆとり町民農園」。

▶正部家（しょうぶけ）／松原氏によるとアイヌ語で「ソウ・ポ・ケ」で、意味は「滝・下の・所」。旧村以来の集落。

5 道仏（どうぶつ）

夏堀氏によると、アイヌ語の「ト・プツ」で、意味は「山（岬）の・口」になります。

▶小舟渡（こみなと）／夏堀氏によると、アイヌ語の「コムブ・ナ・ト」で、意味は「昆布を・切る・岬」。松原氏によると、「小漁港」の意味になる。

▶大蛇（おおじゃ）／松原氏によるとアイヌ語の「オホ・チャ」で、意味は「深い・岸」。海成段丘から見た「はしかみハマの駅あるでぃーば」（左の建物）と大蛇漁港方面。背後にはさらに何段かになった海成段丘がある。

6 鳥屋部（とやべ）

松原氏によると、アイヌ語の「ト・ヤン・ペ」で、意味は「沼・陸へ上がる・もの」になります。階上岳と蒼前平海成段丘との間の低地に小沼が並び、最後の沼が鳥屋部にあったとされます。かつては小舟に荷物を積んで沼沢地を進み、陸地は小舟を担いで運んだので付いた地名ではないかとされます。

▶沼沢（ぬまさわ）／沼沢から見た階上岳。その名の通り、かつては沼と沢があった。

▶西鳥屋部（にしとやべ）／階上岳登山道入り口で、左に「フォレストピア階上」がある。

7 晴山沢（はれやまざわ）

松原氏によると、アイヌ語の「ハル・ヤム」と日本語の「沢」で、意味は「食料・冷たい」沢（食料のとれる冷たい沢）になります。

▶根岸（ねぎし）／松原氏によると「山の裾のそば」になります。写真は根岸の西光寺。

▶釜ノ口（かまのくち）／夏堀氏によるとアイヌ語の「カマ・ノ・クツ」で、意味は「上を越す・よい・崖」。根岸と鷹幸の中間にあって、標高200mの記号がある深い沢地を含む。

8 平内（ひらない）

夏堀氏によると、アイヌ語の「ピラ・ナイ」で、意味は「崖・沢」になります。

▶百目木（どめき）／松原氏によると、「どうめき」＝「水のどよめく所」の意味になる。沢水が豊富。

▶登切（のぼきり）／夏堀氏によるとアイヌ語の「スプリ・キル」で、意味は「山・足」。その名の通り山裾を指し、わっせ交流センター（右奥の時計台がある建物）付近を道路側から見た景観。

特集2

思い出写真館

昭和のノスタルジア

昭和はまず戦争の時代として始まります。昭和6年（1931）の満州事変を皮切りに昭和20年（1945）の太平洋戦争終結まで、戦時色一色の悲劇の時代でした。

終戦後は食糧事情が極度に悪化し、敗戦国としての塗炭（とたん）の苦しみを味わいましたが、朝鮮戦争の特需景気や神武（じんむ）景気、岩戸（いわと）景気などを経て驚異の復興を遂げ、昭和35年（1960）以降は高度経済成長期に入って、ほぼ現在の生活水準が確立されたといわれています。

公的機関は別として、国民にもカメラが普及した時期でもあり、各家庭に「アルバム」が揃えられるようになりました。

この特集では、その懐かしい昭和の時代を、昭和50年（1975）あたりまで写真で振り返ります。

▲朝食と昼食の間の「コビリヤスミ」（昭和20年代か）

▲出征した夫の無事を願い井戸水で垢離（こり）を取る女性（昭和10年代か）

▲校庭を整備する小舟渡小学校の児童たち（昭和29年）

▲集団検診車ひかり号で検診を受ける東平開拓地の住民（昭和34年）

▲木炭を運ぶ赤保内小学校の児童たち（昭和34年）

▲カブをおやつ代わりに頬張る子どもたち（昭和20年代か）

▲道仏小学校落成記念写真（昭和38年）

▲階上優良乳幼児表彰式（昭和36年）

▲改修前の小舟渡漁港（昭和40年頃か）

▲登切小学校が県給食優良校となる（昭和46年）

▲階上駅前の商店街（昭和46年頃）

▲SL「思い出号」と階上駅（昭和47年頃）

◀世代間交流でそば打ち体験（昭和50年前後か）

私の階上、未来の階上

私の大好きな階上、未来の階上に向けて町制施行40周年にちなみ、町民40人からのメッセージを届けます。

特集4

川柳で感じる郷土の階上

階上小学校
石鉢小学校
赤保内小学校
道仏小学校
大蛇小学校
小舟渡小学校
階上中学校
道仏中学校
はしかみ川柳会

合計69作品

※作品は、令和元年度に作成されたものです。

早生そばを
ズルズルすする
子どもたち
階上小学校五年 田畑穏空

はしかみは
そばがおいしい
スープもね
石鉢小学校四年 沢田璃愛那

あいさつで
信じ合える
明るい町に
石鉢小学校六年 下野優杏

町民の
笑顔あふれる
階上町
赤保内小学校六年 六ッ役璃乃

ふるさとは
いつまでたっても
階上町
階上小学校六年 石田和志

はしかみ岳
紅葉まとって
はれすがた
石鉢小学校五年 森幸

私もあなたも
みんなが生き生き
助け合う町
石鉢小学校六年 澤里初花

ふるさとの
産業豊か
願ってる
赤保内小学校六年 佐々木英真

風かおる
そばのかおりの
はしかみわせ
石鉢小学校四年 佐竹凜音

臥牛山
祭りでひびく
太鼓の音
石鉢小学校五年 宗前瑚春

震災で
とりもどしたのは
笑顔と希望
石鉢小学校六年 柴田悠也

この町は
山も海も
楽しいよ
赤保内小学校六年 村元麻音

祖父祖母と
階上岳に
きのこ取り
石鉢小学校四年 小松真世

寺下の
ホタルのすみか
残したい
石鉢小学校五年 佐藤勇吹

万引きゼロ
いじめもない
平和な町
石鉢小学校六年 阿部陽太

階上町
いい人いい町
すてきだな
赤保内小学校六年 八木田くるみ

朝日さす
四十年の
おいわいだ
石鉢小学校四年 石原良真

岩かげに
ヤドカリやカニ
こみなと海岸
石鉢小学校五年 上平怜

光る海
緑の森を
ありがとう
石鉢小学校六年 藤谷和

海の幸
うにやヒラメに
豊富だな
赤保内小学校六年 前田紗季

みどりこく
階上岳や
青い空
石鉢小学校四年 尾﨑奏

白い灯台
波とヤドカリ
青い海
石鉢小学校五年 大石和輝

はしかみは
生き物いっぱい
うれしいな
石鉢小学校六年 上澤凜斗

階上の
未来にとどけ
笑顔花
赤保内小学校六年 小西麗実那

階上へ
笑顔がたえない
町であれ
赤保内小学校六年 原川航青

階上町
山あり海あり
れきしあり
赤保内小学校五年 小笠原瑠香

かたりつぐ
歴史と自然
これからも
赤保内小学校五年 野里悠月

美しい
自然と風景
残すべき
赤保内小学校五年 小松永人

助け合い
がんばりうまれた
階上町
赤保内小学校五年 平裕斗

階上町
やさしい笑顔で
つつまれる
赤保内小学校五年 袖平陽介

階上町
日本一の
ふるさとだ
赤保内小学校五年 佐々木颯太

あふれ出る
自然の宝
海と山
道仏小学校六年 天摩美海

階上町
未来へひきつげ
伝統芸能
道仏小学校六年 髙山龍正

いちご煮に
負けずかがやく
おもてなし
大蛇小学校六年 下畑凌世

そばうにラム
山海の幸
頬ゆるむ
大蛇小学校六年 髙屋敷龍暉

町民の
思いをつないだ
四十年
道仏小学校六年 濱谷歩香

心のせんたく
日の出海なら
階上町
大蛇小学校六年 橋場心美

一番の
朝日と海に
ひとめぼれ
小舟渡小学校四年 佐京あかり

はつひので
そまる海こそ
小舟渡だ
小舟渡小学校三年 髙屋敷結衣

階上町
長い歴史を
これからも
階上中学校一年 鹿糠結生

階上の
豊かな自然
美しい
階上中学校一年 大清水健人

階上岳
いつも変わらぬ
美しさ
階上中学校二年 引敷林朔

大好きな
自分のふるさと
階上町
階上中学校二年 原川深青

かくされた
郷土料理は
「ドンコ汁」
階上中学校三年 佐々木さくら

健康を
階上そばが
支えます！
階上中学校三年 田端愛麗

さざなみの
音がかなでる
小舟渡の海
階上中学校三年 中野莉那

りんと咲く
ツツジは階上
あおぎ見る
階上中学校三年 畑山昇雲

ずっとずっと
階上岳に
咲くつつじ
階上中学校三年 松川真梨果

だれでもが
見に来たくなる
ツツジの花
階上中学校三年 山田美優

永久に
階上産を
継いでいく
階上中学校三年 岡田明大

くらす日々
笑顔あふれる
階上町
階上中学校三年 髙橋真緒

永遠に
笑顔輝く
階上町
階上中学校三年 伊藤恋羽

パラダイス
階上町の
絶景は
階上中学校三年 十文字亮博

知ってほしい
万能調味料
カゼ水を
階上中学校三年 中田采那

ばあーんと
鐘の音がなる
應物寺
階上中学校三年 金沢栄明

ほっこりと
心があたたまる
イチョウの木
階上中学校三年 大井駿

町中に
笑顔の花咲く
階上町
道仏中学校二年 長根愛理

階上の
幸があふれる
山と海
道仏中学校二年 石沢愛莉

階上の
未来に響け
寺の鐘
道仏中学校三年 上野芳輝

あぶらめと
共に育った
階上町
道仏中学校三年 中村咲都希

古里を
ガラリと変えた
アスファルト
はしかみ川柳会 上長根武志

輝きの
未来に向かう
階上町
はしかみ川柳会 十文字りん子

ルビー婚
町もそうかと
懐かしむ
はしかみ川柳会 中島散思

「はしかみ」と
さらりと読んだ
出身者
はしかみ川柳会 下日向ぼっこ

はしかみの
朝日に拝む
世の平和
はしかみ川柳会 中屋敷独歩

海山と
背中合わせの
町が好き
はしかみ川柳会 中田玲子

何世代
見守り続け
臥牛山
はしかみ川柳会 三上小鞠

時移り
世代変われど
町光る
はしかみ川柳会 関川正四郎

我が町を
デンと見守る
御神木
はしかみ川柳会 黒川捷

※各学校の作品数（全60作品）は、各学校の全校生徒数に応じ掲載しています。また、各学校で選定した作品を掲載しています。

特集5

はしかみ 宝図鑑

❶ 自然・歴史・文化財 【階上町の基層を知るために】

山里の景観と階上岳

花崗閃緑岩が露頭した階上岳頂上付近のジオサイト

【自然】

青森県三戸郡の東部にあり、東は太平洋に面し、北西は八戸市、南は岩手県九戸郡軽米町・洋野町に接しています。南端の県境には標高739・6mの階上岳があり、町域はその北麓に広がる海岸段丘の丘陵地が大半を占めて緩やかに海に至っています。

階上岳は北上山地北端に位置し、火山活動で噴出したマグマが冷え固まってできた花崗閃緑岩が全山を厚く覆っています。階上岳は浸食から取り残された残丘（モナドノック）で、分解が進んで地表が丸い形となったために、牛が寝そべっているような山容として、別名「臥牛山」とも呼ばれるようになりました。

階上海岸には平らな海食台があって、北の一部が砂浜や円礫（海浜石）に覆われているほか、ほとんどが岩礁の多い岩石海岸になっています。その汀線は、総延長約5・5kmと短いのですが、変化に富んでおり、第一級の海岸景勝地になっています。

階上岳大開平のツツジ

気候は太平洋側気候で、夏は偏東風（やませ）の影響で冷涼であり、冬は北東北にありながら降雪量が少なく乾燥し、晴天が多いため日照時間も長いのが特徴です。

階上岳は植物の種類も豊富で約400種近くが自生しています。中でも6月上旬に大開平から頂上までの登山道を埋めつくす〝つつじの回廊〟は圧巻です。階上海岸では北上山地の植物区系に含まれる多様な海浜植物、塩生植物が自生していますが、特に景観を代表するものにハマナス、ニッコウキスゲ、スカシユリ、ハマギクがあります。そのほか野鳥や魚介類も多種多彩です。

ジオサイトの階上海成段丘

平成25年（2013）5月24日に「三陸復興国立公園」に編入され、併せて同年11月には、八戸市蕪島から福島県相馬市までの太平洋沿岸約700kmに及ぶ国内最長の長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」の構想ができ、階上の豊かな自然資源を生かした観光も盛んになりました。

また、平成25年（2013）9月には八戸市から宮城県気仙沼市までの南北約220km、東西約80kmに及ぶ「三陸ジオパーク」が日本ジオパークとして認定されました。

ジオパークは、具体的な見どころのジオポイントと、関連するジオポイントをまとめたジオサイトで構成されており、階上岳には花崗閃緑岩・つつじ群生地・階上岳龍神水・寺下観音灯明堂・寺下の滝がジオポイントに指定されています。また、「階上海成段丘」は、三陸ジオパークのジオサイトに認定されています。

スカシユリなどの海浜植物と青森県最東南端の階上灯台（右奥）

膝を抱える土偶

【歴史】

階上町には多くの遺跡が確認されています。最古のものは、平内にある滝端遺跡から青森県内で4例目となる縄文時代草創期（約1万年前）の爪形文土器と石斧、晩期（約2300年前）の膝を抱える土偶などが出土し、そのほか平安時代に至るまでの遺跡も多数発掘されています。

歴史時代では、神亀元年（724）に僧侶・行基が寺下に應物寺（寺下観音）を創建したあたりがルーツといわれ、古代末期から近世初頭にかけては馬産地として知られる糠部の東の門地域に含まれていました。

中世では文安元年（1444）に琳阿孝寛大和尚が道仏に西光寺を開山し、戦国時代には道仏館の館主・赤松民部が領知して、ほぼ現在の集落の基盤が形成されたといわれています。その後、根城南部氏の領地となり、近世には盛岡藩領を経て八戸藩領に属しています。

近代に入ると、明治4年（1871）の廃藩置県によって八戸県に属し、弘前県、青森県と改変後、明治11年の郡制施行で三戸郡に編入され、明治22年の町村制施行によって旧8カ村を合併して階上村となりました。現在の階上町になったのは昭和55年（1980）5月1日の町制施行によるものです。

トレイルウォークで寺下観音鐘撞堂の梵鐘を撞く参加者

【文化財】

有形文化財には、滝端遺跡出土遺物、應物寺三尊像、寺下観音の梵鐘・蛇口伴蔵願文額・文化八年俳諧献額、天保百姓一揆書留、陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図などがあります。

無形民俗文化財（伝統芸能）には、豊作祈願のえんぶり（平内・田代・鳥屋部／国指定）、念仏踊り系の赤保内駒踊り・平内鶏舞（県指定）、山伏神楽系の道仏神楽、盆踊りの西光寺ナニャドヤラ（町指定）などが伝承されています。

天然記念物には、茨島のトチノキ・蛭子のうつぎ・銀杏木窪の大銀杏・平のサイカチ（県指定）などがあります。

赤保内駒踊り

鳥屋部えんぶり

茨島のトチノキ

平内鶏舞

人物【階上町をベースに心豊かに生きて】

西村 裕子さん（デザイナー）

自宅のパソコン前で

●西村裕子（にしむら・ゆうこ）…昭和56年（1981）生まれ。宮城県七ヶ浜町出身。地元の高校を卒業後、専門学校CG科に1年通い、東京でデジタル製版会社、製薬会社に就職。平成28年（2016）夫の実家の階上町に移住。チラシの通販デザイン会社のディレクターを経て、現在は企業の広報兼デザイナーとして勤務しつつ、フリーデザイナーとして活躍。

ネットの風に乗って階上に着陸

出身の宮城県の高校にはデザイン科があったものの、普通科に入学した西村さんは、デザイン学科の友人に触発されて、いつしかデザイナーに憧れるようになりました。

時代はデジタル社会の入り口。コンピューターグラフィックスにはまり、デザイン専門学校へ入学。1年後には東京で、写植からデジタル製版に移行しようとしていた会社に就職しました。

その2年後には大手製薬会社のオンデマンド印刷担当で、オペレーターやデザイナーを10年ほど。「ともかくも現場叩き上げで、何でも屋でした」とのことですが、超高速で変化するネット社会の時代に乗って、先端の仕事をこなしてきました。

やがて結婚・妊娠を機に、平成28年（2016）夫の実家である階上町に移り、夫婦でチラシの通販デザイン会社のディレクターになりました。社員全員が在宅勤務というイマドキ会社です。

現在、裕子さんは八戸市の企業の広報兼デザイナーとフリーデザイナーの二足の草鞋ですが、時間配分などは自己裁量でできること、さらに子どもは〝待機ゼロ〟の町内保育所に預かってもらっているので、生活の自由度はかなり満足そうです。

ほかにもツイッター上の某ハンドルネームで知る人ぞ知る存在です。某コンビニの「何も入っていない」という商品名のクレープを投稿したところ、バズって（話題になって）しまい、フォロワー数が急上昇。今では「階上町の良さをツイッターで発信しつつ、フリーの仕事では都会から受注した仕事で〝外貨〟を稼いでいる感じ」と、まるで屈託がありません。

西村さんの作品の数々

佐京 三義さん、和子さん（工芸家）

ギャラリー内の佐京夫妻

●佐京三義（さきょう・みつよし）…昭和34年（1959）生まれ。階上町出身。高校卒業後、ダイバーとして水中土木に従事。縄文土器に惹かれ、平成7年（1995）から階上町に「ギャラリー佐京窯」を開設。
●佐京和子（さきょう・かずこ）…昭和28年（1953）生まれ。青森市出身。19歳の時に「八戸焼」陶芸サークルに入会。29歳で上京し、20年間東京で暮らす。三義さんと共に「ギャラリー佐京窯」を運営。

縄文と共に生きる

ごく普通の民家ながら玄関を開けてびっくり。そこには重厚な色調の陶器が所狭しと並び、壁際には座敷ぼうきがたくさん吊り下げられていました。佐京さんご夫婦が、子どもを育てるように手塩にかけた工芸品を展示する「ギャラリー佐京窯」です。

しかも伝統的な民窯でもなく、なぜか縄文土器かとまがうような作陶ばかり。「これほど正確に縄文の線刻を再現できる人はいない」と評価されるのもうなずけます。

「縄文が好きで陶芸をしており、その逆ではありません」。それがキモと三義さん。「夫は遊び心満載で、まるで縄文人のような自然児」と和子さんが言葉を重ねる。「実際に作ることで心がわかる」とも語る二人の希望は、感じるままに生きる縄文的生活とか。

40歳の頃に八戸の是川縄文館で土器作り体験をし、縄文文様にはまったという三義さんは、ひたすら土を練り、形成し、縄文を線刻してきました。和子さん曰く、「文様をテーマにし、それに特化したので土器にこだわらず、陶器に進むことができた」とのこと。

和子さんが轆轤を挽き、三義さんが文様をつけた抹茶茶碗は、ある茶人に「全く作為がない」と称賛されたという。それを「才能がない者同士の奇蹟のコラボ」と、無邪気に笑う二人でした。

遊びの達人ぶりを発揮して、今はホウキモロコシを栽培し、販売まで六次産業でオリジナルな座敷ぼうきを製作。それも評判で、佐京窯製陶器と一緒に、階上町ふるさと納税の返礼品になっています。

座敷ぼうきを編む精巧な手付き

柳沢 亜希子さん（ハンドメイド作家）

作品を持つ柳沢さん

●柳沢亜希子（やなぎさわ・あきこ）…昭和51年（1976）生まれ。八戸市出身。3歳で階上町に移住し、地元の保育園～中学校を経て高校卒業後、平成24年（2012）に結婚。同27年にハンドメイドショップ「クラフトスペースhana」（ハワイ語で「作る」の意）を開店。同30年からつまみ細工サークル「hisui」を主宰している。

手作りの温かさを伝えたい

母親が縫製工場に勤めていたこともあって、保育園に通うあたりには小さな着せ替え人形の服を作ったり、フェルトにビーズを刺した筆入れを作ったりと、いっぱしの手作り名人だったようです。

家庭科が好きで、中学校ではクラブで津軽こぎん刺しに熱中していたとか。その中学の友人だった地代所理奈さんと、平成27年（2015）に階上町民文化祭で偶然再会したことで、その後の運命が変わっていきました。

町内で「エルマーナ」というハンドメイドショップを経営していた地代所さんに、隣の空き店舗での開店を勧められた柳沢さんは、即決して同年、ハンドメイドショップ「hana」を開店。その後、オーダーメイドで作る布小物や、色々なハンドメイドが体験できるワークショップが評判になり、固定客が増えていきました。

平成30年（2018）にはつまみ細工サークル「hisui」を主宰し、月2回のワークショップを開催したり、イベントに出品したりと、順調に同好の士の輪が広がっています。

地代所さんとは2人で「ハンドメイド盛り上げ隊」を結成。平成29・30年と2年連続でハンドメイドフェスを町内で開催し、1日で900人もの来場者で賑わったとのこと。

「その人にとっての一点ものを作り、お渡しした時の笑顔が嬉しい。私まで心を癒される瞬間です」と語る柳沢さん。作品はつまみ細工アクセサリーのほか、布小物、手まり、指輪やネックレスにもなる絹製指ぬき、依託で作る帯バッグなど多種多彩。保育園・小学校の入園・入学用品のオーダーメイドも扱っています。

帯バッグやパッチワークの彩り鮮やかな作品

庭野 武一さん（民謡歌手）

「来満牛方節」を歌う庭野さん

●庭野武一（にわの・たけかず）…昭和37年（1962）生まれ。階上町出身。高校卒業後、上京し自動車工場で板金塗装の仕事に従事。20歳で帰郷し、平成元年（1989）から同29年（2017）まで28年間八戸市内の自動車工場に勤める。同30年度から現在まで八戸市立大館中学校で用務員を勤める傍ら、40歳半ばから本格的に民謡を習い、平成31年、令和2年と2年連続で青森県民謡グランプリ王座決定戦で準グランプリを受賞。

持ち前の声量で、階上を元気に

庭野さんは、平成31年（2019）のRAB青森放送主催「青森県民謡グランプリ王座決定戦」で活躍し、同年2月にわっせ交流センターで開催された「蕎麦と焼酎の夕べ」でも民謡を披露しており、多くの町民に知られるようになりました。

しかし、民謡は「木遣歌」のように平安期の仏教音楽「声明」が源流といわれ、日本独自の民族音楽にもかかわらず、なぜか特異分野のイメージが強いようです。

父親が結婚式などで民謡を歌っていたため、何の抵抗もなくその世界に入っていけた庭野さんは、40代半ばながら平成19年（2007）、南部町名川の郷土芸能保存会会長も務める久保正幸氏の民謡社中に入り、大きな転機を迎えます。それまで独学の趣味だったものが、月3回の稽古を重ねて徐々に頭角を現し、ついに平成31年の第17回青森県民謡グランプリ第65代準民謡王座に輝いたのです。

この大会は、青森県内最大の民謡大会で、参加は青森県人に限らないのですが、ルールは曲目が青森県の民謡に限られていることです。庭野さんの曲目は、南部民謡の「来満牛方節」。久保師匠の選曲で、「牛だからゆっくり歌え」といわれたとのこと。遅いほどごまかしが効かないため難しいそうで、それだけ師匠の期待が大きいことを窺わせます。

「息継ぎを安定させるため、普段から走り込みをして肺活量を鍛えている」という庭野さん。持ち前の声量で、階上町を元気にしてもらいたいですね。

※令和2年（2020）2月に開催された第18回青森県民謡グランプリでも準民謡王座に輝いた。

青森県民謡グランプリ準Vの賞状とトロフィー

偉人【階上に生きた先人たち】

津要玄梁（しんよう げんりょう）

津要和尚の墓所（日向山中腹）

寺下観音中興の祖といわれる津要玄梁は、延宝8年（1680）、八戸湊柳町の若松屋に生まれたと伝えられます。正徳2年（1712）33歳で寺下日向山（ひなたやま）に草庵（津要庵）を結び、享保15年（1730）日向山頂上に燈明堂を建立。延享2年（1745）8月4日には五重塔を完成させ、その年の12月に66歳で入寂（にゅうじゃく）しました。

蛇口伴蔵（へびぐち ばんぞう）

蛇口伴蔵の銅像（世増ダム左岸）

蛇口伴蔵は文化7年（1810）に生まれ、軽米代官蛇口家の婿養子となり、家督を相続して伴蔵を襲名したようです。安政4年（1857）に隠居すると、私財を費やして蒼前平（そうぜんたい）に水路を通す大規模な水利事業に尽力。結局は未完成で終わりましたが、その大志は慶応2年（1866）9月に57歳で世を去るまで止むことはありませんでした。

太田広城（おおた ひろき）

太田広城肖像（明治2年東京にて）

太田広城は天保9年（1838）、三戸郡角柄折（つのがらおり）村に八戸藩士太田喜満多久容（きまたひさもり）の次男として生まれました。その後、明治4年（1871）には八戸藩公用人として大参事まで昇格。明治6年（1873）には県政改革によって青森県典事（副知事級）に就任し、青森県誕生に貢献しました。明治44年（1911）に波瀾万丈の生涯を74歳で閉じました。

荻ノ沢甚作（おぎのさわ じんさく）

郷土誌「はしかみ」を編集する荻ノ沢甚作

荻ノ沢甚作は明治31年（1898）、階上村晴山沢に生まれました。家業の農業に従事しながら郷土の歴史・民俗・文化に関心を持ち、昭和27年（1952）7月10日、郷土誌「はしかみ」を創刊。第25号までを独力で継続発行しました。雅号を「白吟（はくぎん）」とし、辞世の句は「蜻蛉（せいれい）や弔い止めの又塔婆（とうば）」。昭和51年（1976）11月、78歳で没しました。

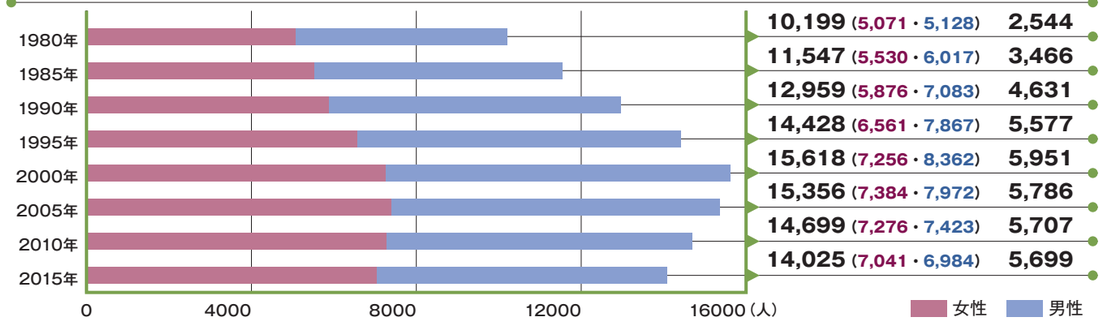
木村靄村（きむら あいそん）

自作の短歌をろうけつ染めした屏風を背景にした木村靄村

木村靄村は明治32年（1899）、階上村鳥屋部（とやべ）に生まれました。八戸市の呉服屋に奉公する傍ら、短歌に目覚め短歌結社「アララギ」に入会。島木赤彦、斎藤茂吉に師事し歌道に励みました。階上岳大開平（おおひらきたい）に「乳呑ます牛のまなこにふるさとの　山はさかさまに映りてゐにけり」の歌碑があります。昭和41年（1966）2月、67歳で没しました。

【資料編】町民と共に歩む

町制施行以降40年間の人口と世帯数 1980年~2015年



資料：総務省統計局「国勢調査」、階上町資料、「青森県人口移動統計調査」

地区別の人口	2000年			2005年			2010年			2015年		
	人口	女性	男性	人口	女性	男性	人口	女性	男性	人口	女性	男性
金山沢	569	290	279	539	281	258	518	265	253	455	232	223
田代	287	142	145	256	128	128	254	132	122	209	108	101
晴山沢	239	121	118	207	99	108	181	84	97	170	80	90
平内	243	136	107	224	124	100	188	106	82	170	92	78
石鉢	1,509	751	758	1,605	802	803	1,663	841	822	1,650	831	819
蒼前	1,686	676	1,010	1,728	778	950	1,801	827	974	1,938	921	1,017
野場中	1,686	820	866	1,784	870	914	1,698	826	872	1,676	842	834
角柄折	275	136	139	288	146	142	262	136	126	263	142	121
鳥屋部	436	217	219	430	215	215	392	191	201	375	184	191
赤保内	801	428	373	808	434	374	751	390	361	667	341	326
耳ケ吠西	1,211	601	610	1,295	646	649	1,296	658	638	1,335	672	663
耳ケ吠東	1,433	719	714	1,497	754	743	1,473	739	734	1,394	694	700
荒谷	368	177	191	359	179	180	348	174	174	317	155	162
大蛇	533	277	256	488	251	237	462	235	227	405	209	196
追越	461	228	233	433	210	223	395	193	202	381	190	191
榊	687	352	335	672	334	338	541	275	266	505	255	250
駅前	733	370	363	676	345	331	681	352	329	617	324	293
道仏	898	445	453	850	424	426	785	388	397	682	337	345
小舟渡	1,024	520	504	978	501	477	882	461	421	784	403	381

※地区別の人口は町で各年度の3月31日に集計したものです

歴代村長及び町長

初代 盛城勝三 明治22年6月22日～明治30年6月25日
第二代 小幡茂周 明治30年6月26日～明治35年6月10日
第三代 菊池勝章 明治35年6月11日～明治39年6月6日
第四代 正部家利三郎 明治39年6月11日～大正4年8月24日
第五代 正部家伊太郎 大正4年9月12日～大正7年5月8日
第六代 久保節 大正7年6月7日～大正10年3月16日
第七代 中田岩太郎 大正10年3月17日～大正14年3月16日
第八代 野沢三蔵 大正14年4月7日～昭和3年5月20日
第九代 柳沢豊吉 昭和3年5月21日～昭和7年5月20日
第十代 川村末吉 昭和7年5月28日～昭和19年5月27日
第十一代 浜谷辰之助 昭和19年6月13日～昭和21年11月14日
第十二代 茨島豊蔵 昭和22年4月28日～昭和30年3月22日
第十三代 中田清助 昭和30年5月1日～昭和46年4月29日
第十四代 荒谷定蔵 昭和46年4月30日～昭和58年4月29日
第十五代 正部家佑介 昭和58年4月30日～昭和62年4月29日
第十六代 桑原三津夫 昭和62年4月30日～平成元年11月21日
第十七代 正部家佑介 平成元年12月24日～平成13年12月23日
第十八代 上山博一 平成13年12月24日～平成17年12月23日
第十九代 浜谷豊美 平成17年12月24日～現在

歴代助役及び副町長

初代 菊池勝章 明治22年6月22日～明治35年6月10日
第二代 正部家利三郎 明治35年7月25日～明治39年6月6日
第三代 角田勇亀 明治39年7月19日～大正2年6月24日
第四代 正部家米三郎 大正2年6月25日～大正3年8月17日
第五代 渡部源三 大正3年8月18日～大正6年4月12日
第六代 大芦梧楼 大正6年4月13日～大正7年5月2日
第七代 久保節 大正7年5月3日～大正7年6月6日
第八代 伊藤正純 大正7年6月10日～大正14年12月20日
第九代 稲葉萬蔵 大正14年12月21日～昭和2年5月30日
第十代 小幡茂信 昭和2年5月31日～昭和14年4月30日
第十一代 松倉清蔵 昭和14年5月1日～昭和22年4月30日
第十二代 柳沢熊次郎 昭和22年5月1日～昭和34年4月30日
第十三代 中村正一 昭和34年6月14日～昭和46年9月19日
第十四代 中田時安 昭和46年10月1日～昭和58年4月29日
第十五代 出町茂 平成元年4月1日～平成4年3月31日
第十六代 根岸勇蔵 平成4年4月10日～平成8年4月9日
第十七代 中村禮一郎 平成8年4月22日～平成12年4月21日
第十八代 笹山一夫 平成14年1月15日～平成17年12月23日
第十九代 高谷清孝 平成18年4月1日～平成21年3月31日
第二十代 久保和子 平成22年1月25日～平成27年3月24日
第二十一代 沼沢範雄 平成27年4月1日～現在

【資料編】町民と共に歩む

歴代議長

初代	根岸清人	昭和22年5月～昭和26年4月29日
第二代	上野安太郎	昭和26年5月7日～昭和30年4月29日
第三代	桑原一郎	昭和30年5月10日～昭和34年4月29日
第四代	松倉耕造	昭和34年5月18日～昭和38年4月29日
第五代	中田時安	昭和38年5月15日～昭和42年4月29日
第六代	大江八郎	昭和42年5月12日～昭和46年4月29日
第七代	上野正藏	昭和46年5月6日～昭和58年3月29日
第八代	坂本清之助	昭和58年5月9日～昭和62年9月15日
第九代	荒谷剛生	昭和62年10月1日～平成2年7月23日
第十代	野沢和也	平成2年7月23日～平成3年4月29日
第十一代	宗前勝雄	平成3年5月10日～平成7年4月29日
第十二代	前田常男	平成7年5月17日～平成11年4月29日
第十三代	荒道鶴造	平成11年5月14日～平成15年4月29日
第十四代	桑原一夫	平成15年5月6日～平成19年4月29日
第十五代	松森　蒿	平成19年5月11日～平成23年4月29日
第十六代	木村勝彦	平成23年5月12日～平成27年4月29日
第十七代	山田惠治	平成27年5月11日～平成31年4月29日
第十八代	林　貢	令和元年5月13日～現在

歴代副議長

初代	盛常丸	昭和22年5月～昭和26年4月29日
第二代	桑原一郎	昭和26年5月7日～昭和30年4月29日
第三代	大江八郎	昭和30年5月10日～昭和34年4月29日
第四代	北城善衛	昭和34年5月18日～昭和38年4月29日
第五代	小松　清	昭和38年5月15日～昭和42年4月29日
第六代	正部家淑郎	昭和42年5月12日～昭和46年4月29日
第七代	柳沢与兵衛	昭和46年5月6日～昭和50年4月29日
第八代	荻ノ沢助右衛門	昭和50年5月8日～昭和54年4月29日
第九代	大前武雄	昭和54年5月1日～昭和58年4月29日
第十代	下野岩男	昭和58年5月9日～昭和62年4月29日
第十一代	浜谷照雄	昭和62年5月23日～昭和62年9月12日
第十二代	荒谷剛生	昭和62年9月16日～昭和62年9月30日
第十三代	金沢啓一	昭和62年10月1日～平成3年4月29日
第十四代	山田昭治	平成3年5月10日～平成7年4月29日
第十五代	浜谷豊美	平成7年5月17日～平成11年4月29日
第十六代	平戸茂雄	平成11年5月14日～平成15年4月29日
第十七代	畑中弘實	平成15年5月6日～平成19年4月29日
第十八代	土橋信夫	平成19年5月11日～平成23年4月29日
第十九代	加藤　祐	平成23年5月12日～平成27年4月29日
第二十代	畑中弘實	平成27年5月11日～平成31年4月29日
第二十一代	松尾國治	令和元年5月13日～現在

階上町民憲章

わたくしたちは、やま（臥牛山）と、うみ（太平洋）の美しい自然にはぐくまれた豊かな伝統をもつ階上町民です。

わたくしたちは、愛する郷土の発展としあわせをねがいこの憲章を定めます。

一、心のふれあいを大切にし文化の高いまちにしましょう。

一、より豊かな生活を求め活力のあるまちにしましょう。

一、心とからだをきたえ健康なまちにしましょう。

一、恵まれた自然を愛護し美しいまちにしましょう。

一、みんなできまりを守り住みよいまちにしましょう。

［昭和55年5月1日制定］

階上町町章

階上町の（上）の字を図案化し、その上に（階）の字を載せ、常に上向きの生活を希い、円形は、平和と協力を表徴したものである。（町民から募集した入選作）

［昭和39年8月1日制定］

町の花・木・鳥・魚

※花・木・鳥［昭和55年5月1日制定］
※魚［平成6年3月22日制定］

町の花／つつじ

厳しい風雪に耐え新緑の山野に美しく咲く「つつじ」は、町民のたくましさと心のやさしさを表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

町の木／けやき

どっしりと大地に根を張り大空高く繁る「けやき」の姿は、町の伝統のゆかしさと未来への発展を表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

町の鳥／ウグイス

数多く生息する鳥類の中でも高尚でさわやかな「うぐいす」の鳴き声は、町民の心をなごませ町の自然の良さを表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

町の魚／アブラメ

本町沖で獲れる魚介類の消費拡大や観光漁業を含め、より一層の漁業振興を図るために制定されました。平成5年10月に町内全世帯を対象に実施したアンケート結果と年間を通じて漁業者や遊漁船等で多く漁獲されていることから町の魚に選ばれました。

町のシンボルキャラクター

特産品のウニをモチーフに「かぜ丸」（注：かぜ＝ウニ）
町の花つつじをモチーフに「つつじ姫」
町の魚アブラメをモチーフに「あぶらめくん」
合わせて「はしかみキッズ」です！
ある時、彼らは火星を目指し飛行していたが、突然のトラブルに見舞われ、やむなく地球に不時着することに・・・。緊急着陸したのは、自然豊かな島国日本のアオモリケンハシカミチョウであった。

［平成12年12月1日制定］

『 階上町町制施行 40 周年記念誌 』は 6,000 部作成し、印刷経費は 1 部当たり 581 円です。

階上遺産
Legacy
懐かしい未来へ向けて

40 階上町町制施行 周年記念誌

発行日／令和2年3月
発行／階上町
編集／階上町総務課
〒039-1201 青森県三戸郡階上町大字道仏字天当平1-87
TEL：0178-88-2111（代）

企画制作／株式会社テクノス
〒039-1114 青森県八戸市北白山台二丁目4-23
TEL：0178-27-6565

＊発行所の許可なく本紙掲載文・写真を転載・複製することを固く禁じます。
2020©hashikami